

神の家(ベテル)であるイエス

ヨハネ1:43~51 / 李正雨師

御無沙汰しております。私が2021年3月まで池上教会で働いたので、今日の礼拝は、ほぼ3年ぶりの礼拝になります。池上教会は、私が日本で初めて就任した教会なので、いろいろな思い出がある教会です。今、思い出してみると、働きもたくさんして、間違いもたくさんしました。毎年、教会コンサートを開き、ハンゲル教室、イースター・クリスマスの行事、牧師館パーティーもありました。毎週の礼拝が終わってからは、皆様との食事や聖書の分かち合いもありました。個人的にも多くのことがありました。ここで次男と三男が生まれ、長男は幼稚園を卒業しました。公的にも、私的にも、様々な思い出があるところが、ここ池上教会です。このように韓国に帰る前に、再び池上教会に戻って礼拝をささげることになり、神様に感謝、皆様にも感謝いたします。

私は、3月からは韓国で牧会をすることになりました。そして私は、このすべてのことが神様の計画だと思っています。日本に来たのも、神様の計画であり、帰ることになるのも、神様の計画だと思っています。この過程の中で多くのことがありましたが、すべてのことは神様が導かれたと思っています。この世の歴史も同じだと思っています。人間がこの世の歴史のように見えますが、結局は、神様の摂理に帰結します。時には、偉大な王や指導者が出て、偉大な国が立てられることもあります。帝国が形成され、強大な富と権力が生まれることもあります。しかし、これらすべては、永遠のものではありません。偉大な人も消え去り、偉大な国も消え去ります。豊かな者がつぶれることもあり、権力ある者が追い出されることもあります。それで、旧約聖書のコヘレトの言葉の書き出しには「なんという空しさ、なんという空しさ、すべては空しい」と書いてあると思います。この世のすべてのものには、必ず終わりがあり、終わりがあるから空しくなるのです。永遠ではないからでしょう。しかし、神様のものは、世のものとは違います。イザヤ書40章8節には、「草は枯れ、花はしぼむが、わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ」と書いてあります。ですから、私たちにとって、神様の御心に従って生きること、永遠の神様の言葉と計画を認めることほど、賢いことはないと思います。この世のものは終わりがありますが、神様のものは終わりがありません。これを忘れない皆様になりますように願います。

今日の福音書も、この神様の計画を表しています。今日の福音書には、イエス様ご自分の弟子たちを招くことと、メシアとしてなされることについて書いてあります。今日の福音書で招かれる弟子たちの名前は、フィリポとナタナエルです。なぜイエス様が彼らをご自分の弟子として招かれたかは分かりません。これも神様のご計画だったでしょう。ところが、招かれたフィリポとナタナエルは、まったく違う反応を示します。フィリポは、イエス様をメシアだと思いますが、ナタナエルはそうではありませんでした。45~46節の言葉です。「フィリポはナタナエルに出会って言った。『わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。』するとナタナエルが、『ナザレから何か良いものが出るだろうか』と言ったので、フィリポは、『来て、見なさい』と言った。」

フィリポは、イエス様がモーセの律法と預言者たちが記録した方だと言います。しかし、ナタナエルはこれを信じていません。なぜなら、フィリポが言った「ナザレの人」という言葉がナタナエルの心に引っかかったからです。律法と聖書について研究したり興味を持った人々は、メシアがどこから来るのかを知っていました。旧約聖書ミカ5章によると、メシアはベツレヘムから出ると預言されているからです。ところが、フィリポはイエス様をナザレの人と紹介します。これは律法と聖書をよく知っていたナタナエルの心に引っかかり、ナタナエルは「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と反論します。ヨハネによる福音書7章52節にも、こう書いてあります。「あなたもガリラヤ出身なのか。よく調べてみなさい。ガリラヤからは預言者の出ないことが分かる。」このように当時の人々は、ナザレだけでなく、ナザレを含むガリラヤでは、預言者も出ることができないと思いました。それでフィリポは、ナタナエルに「来て、見なさい」と言います。直接イエス様に出会ったら、ナタナエルの考えが変わるだろうと思ったからでしょう。

ナタナエルは、フィリポの言葉を確認するためにイエス様のところに行きます。ところが、ナタナエルがイエス様のところに近づくと、先にイエス様がナタナエルについて話します。ナタナエルを真のイスラエル

人だと言われ、この人は偽りが無いとも言われます。真のイスラエル人というのは、神様の言葉に従い、神様の約束を待ち望んでいる人という意味です。イスラエル人にとって最も重要なことは、神様の言葉を信頼することでした。しかし、当時の多くのユダヤ人たちは、神様の言葉よりこの世の風潮に従いました。宗教的な儀式は行われましたが、心は神様から離れていました。偽善で自分を飾り、見た目を大切に思いました。このような時代でしたが、ナタナエルは違いました。48節でイエス様は、ナタナエルにこう言われます。「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、イチジクの木の下にいるのを見た。」

ナタナエルがイチジクの木の下で何をしていたかは、書かれていないので、私たちは分かりません。しかし、当時の律法の教師やラビたちは、イチジクの木の下で律法を教えたり、黙想したりしたそうです。つまり、「イチジクの木の下にいるのを見た」というイエス様の言葉は、ナタナエルが律法を黙想することを見たということかもしれません。ナタナエルが多くの律法の中で何を黙想したかは、よく分かりません。しかし、49節の言葉である「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」というナタナエルの答えを考えると、おそらくナタナエルは、メシアについての言葉を黙想していたのではないのでしょうか。約束されたメシアと洗礼者ヨハネがメシアだと称したイエス様について考えていたかもしれません。イエス様は、これをナタナエルに言われ、この言葉によって彼は自分の前にいる方がメシアであることを確信することになったと思います。イエス様は、ご自分のことをメシアだと告白するナタナエルに「もっと偉大なことをあなたは見ることになる(50節)」と言われます。そして、51節の言葉を言われます。「はっきり言っておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。」

このイエス様の言葉には、大きな意味があります。この言葉がイスラエルの始まりと関連しているからです。イエス様が言われたのは、イスラエルの先祖ヤコブについての言葉です。皆様も、ヤコブがエサウを欺いて祝福を受けたことをご存知だと思います。ヤコブに祝福を奪われたエサウは、ヤコブを殺そうとします。それでヤコブは、ハラシという場所に逃げます。逃げていた途中、日が沈み、ヤコブはそこで一夜を過ごします。そしてヤコブは、夢を見るようになりますが、その夢で見たのが天使が昇り降りすることでした。その夢でヤコブは、自分と自分の子孫への神様の約束を聞くこととなります。ヤコブがいる土地をヤコブに与えてくださるだけでなく、ヤコブの子孫が大地の砂粒のように多くなって広がっていくということです。眠りから覚めたヤコブは、自分が眠っていた所に記念碑を立ち、先端に油を注ぎます。そしてそこをベテル、神の家と呼びます。これは、ヤコブと神様の最初の出会いであり、この出会いによって、ヤコブはアブラハムとイサクを受け継ぐユダヤ人の祖先になります。後にヤコブは、再びベテルに戻るようになりますが、戻ってきたベテルで、神様はヤコブの名を変えてくださいます。変えてくださったその名は、私たちもよく知っている名です。まさに「イスラエル」という名です。つまり、ヤコブからイスラエルが始まるということでした。

ところが、イエス様はこの言葉をご自分が真のイスラエル人だと称されたナタナエルの前でなさいます。なぜイエス様は、ナタナエルにイスラエルの始まりを言われたのでしょうか。なぜイスラエルの始まりのしるしを見ることになると言われたのでしょうか。これは、過去のイスラエルがヤコブから始まったように、新しいイスラエルは、ご自分から始まるということを示されるのです。そして、その始まり、新しいイスラエルの始まりには、ナタナエルのような真のイスラエル人が参加することになるというのです。新しいイスラエルの始まり。民族や血統ではなく、信仰による真のイスラエル。イエス様は、これをご自分の弟子たちに教えておられるのです。ですから、イエス様に従う人は、誰でも真のイスラエル人、神様の民になることができます。イエス様がすなわち神様の家であるからです。

新しい神様の民、イエス様の共同体は、このように始まりました。それで、民族と血統が違う私と皆様と共に信仰生活をするのができ、私が皆様の牧師になることもできたのです。このすべてのことは、神様の計画であり、摂理でした。私はこれを信じて、この信仰の告白を持って韓国に帰ります。今後、私が皆様と再び出会うことになるか、どうかはよく分かりません。しかし私は、皆様のことが思い浮かぶときは、皆様のために、日本の教会のために祈ります。皆様も私のことが思い出されるときは、私と韓国の教会のために祈ってください。この祈りが私たちを霊的につないでくれると思います。神様の民である皆様に永遠の命がありますように。神の家であるイエス様の救いが皆様と皆様の家庭に臨みますように、主の御名によって祈ります。アーメン